

園芸用殺菌剤

# カッパースキン

## 水和剤

殺菌剤分類 24、M1

農林水産省登録 第15744号

常備薬



トマト



だいこん



ブロッコリー



ピーマン



かんきつ



ごぼう



にんじん



すいか



たまねぎ



にんにく



茶



キャベツ



きゅうり



ねぎ

# 野菜・茶・果樹など さまざま な作物の 病害防除に!!

### 特長

- ①『塩基性塩化銅』と『カスガマイシン』の混合剤で安定した効果が期待できます。
- ② 2つの有効成分の働きにより、糸状菌および細菌による多くの病害に対して優れた効果を示します。

#### ● 有効成分

● 塩基性塩化銅	75.6%
[銅として]	45.0%
● カスガマイシン—塩酸塩	5.7%
[カスガマイシンとして]	5.0%

- 毒性——普通物(毒劇物に該当しないものを指す)という通称
- 包装——100g/500g

園芸用  
殺菌剤

# カンパーション水和剤

## 適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数
かんきつ (みかんを除く)	かいはよう病	1000	200~700	収穫45日前まで	5回以内	散布	5回以内
				収穫7日前まで			
なし	黒星病			収穫後 (10月~11月)	2回以内		2回以内
もも	せん孔細菌病 縮葉病	500		開花前まで	3回以内		3回以内
びわ	灰斑病 がんしゅ病	1000	200~700	幼果期まで	3回以内	散布	3回以内
				休眠期			
キウイフルーツ	かいはよう病 花腐細菌病	500	200~700	発芽後叢生期 (新梢長約10cm)まで	4回以内		4回以内 (樹幹注入は1回以内)
				収穫30日前まで	3回以内		3回以内 (種子粉衣は1回以内)
いんげんまめ	かさ枯病			収穫前日まで	5回以内		5回以内
きゅうり	うどんこ病 斑点細菌病、べと病			収穫3日前まで	4回以内		4回以内
すいか	うどんこ病 褐斑細菌病 果実汚斑細菌病			収穫前日まで	3回以内		3回以内
メロン	うどんこ病 斑点細菌病 果実汚斑細菌病			収穫7日前まで	4回以内		4回以内
トマト ミニトマト	葉かび病 輪紋病、軟腐病 疫病、斑点細菌病 かいはよう病	1000	100~300	収穫3日前まで	5回以内	散布	5回以内
				収穫前日まで			
ピーマン とうがらし類	うどんこ病 斑点細菌病 斑点病			収穫7日前まで	4回以内		4回以内
キャベツ	黒腐病、軟腐病 黒斑細菌病			収穫21日前まで	3回以内		3回以内
ブロッコリー メキャベツ	黒腐病			収穫14日前まで	2回以内		2回以内
だいこん	軟腐病 黒斑細菌病 ワッカ症	500~800	100~300	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
					3回以内		
ねぎ	軟腐病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
たまねぎ	軟腐病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
ごぼう	黒斑細菌病			収穫7日前まで	4回以内		4回以内
レタス 非結球レタス	腐敗病 斑点細菌病			収穫14日前まで	3回以内		3回以内
なばな類	黒腐病			収穫7日前まで	5回以内		5回以内
にんにく	春腐病			収穫14日前まで	2回以内		2回以内
にんじん	黒葉枯病、軟腐病 斑点細菌病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
セルリー	軟腐病、斑点病			収穫開始7日前まで	3回以内		3回以内
オクラ	葉枯細菌病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
ばれいしょ	軟腐病 疫病	500~800	100~300	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (種いも浸漬は1回以内、 植付後は3回以内)
		800					
てんさい	褐斑病 斑点病 斑点細菌病	800~1000	100~300	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
		200					
あずき	褐斑細菌病 茎腐細菌病	1000		収穫30日前まで	3回以内		3回以内 (種子粉衣は1回以内)
茶	輪斑病、赤焼病 新梢枯死症 (輪斑病菌による) 褐色円星病 炭疽病	500~1000	200~400	摘採14日前まで	2回以内		2回以内
				発病初期	6回以内		6回以内
ばら	うどんこ病	1000		収穫10日前まで	2回以内		2回以内
ほおずき	軟腐病 斑点細菌病			収穫10日前まで	2回以内		2回以内
ゆり	軟腐病						
たばこ	疫病						

## 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせて薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布してください。
- 石灰硫黄合剤などアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はさけてください。
- 本剤は無機の銅を含むため、うり類、レタス、非結球レタス、だいこんに対して薬害を生ずるおそれがあるので、下記の事項に十分注意してください。
  - 幼苗期又は生育の初期は特に生じやすいので中期以降の散布にしてください。
  - 高温時の散布は症状が激しくなることがあるので避けてください。
  - 連続散布すると葉の周辺が黄化したりすることがあるので過度の運用を避けてください。
  - 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は、薬害軽減に有効であるが、収穫間際には収穫物に汚れを生ずるので留意してください。
- てんさいに使用する場合は、薬害を生ずるおそれがあるので所定の希釈倍数を厳守してください。特に高温時には薬害を生じやすいので朝夕の涼しい時に所定範囲の低濃度で使用してください。
- ばらに使用する場合は、葉に散布液の汚れが残ることがあるので注意してください。
- かんきつに使用する場合は薬害(スタメラノーズ)の発生を防止するために、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。特に果実の着生期の使用では厳守してください。
- ピーマンのうどんこ病防除に使用する場合は、発病後の散布は効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布してください。
- 核果類(ももを除く)、れんこん、白菜等には薬害を生ずるおそれがあるのでかからないように注意して散布してください。
- キャベツに使用する場合は、品種、作型により薬害を生ずるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- いんげんまめ及びあずきに使用する場合は、高温時の散布は薬害を生ずるおそれがあるので避けてください。
- 発芽後のキウイフルーツに使用する場合は、葉に軽い薬害を生ずることがありますが、実用上の問題はありません。但し、使用時期が遅くなると葉や果梗に実害を生ずるので使用時期を厳守してください。
- びわに使用する場合は、果実に薬害を生ずるおそれがあるので、幼果期(果実の横径約1cm)以降の散布は避けてください。
- ももに使用する場合は、開花前までに使用してください。開花期以降は銅による薬害が生じることがあるので散布しないでください。
- ブロッコリーに使用する場合は、生育抑制や葉縁の黄白化等の薬害を生ずるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守してください。
- にんにくに使用する場合は、葉に薬害を生ずることがあるので、高温時(6月以降)の多数回散布は避けてください。
- みずかけな(水掛菜)に使用する場合は、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- てんさいに対して希釈倍数200倍(使用液量25ℓ/10a)で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用してください。

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空袋・空容器は圃場や用水路などに放置せず、適切に処理してください。●防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ/ご注文は